

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

廿日市市立大野西小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	99	113	115	110	123	113	673	52	725
学級数	3	4	4	4	4	3	22	8	30

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	A	C	B	推進	専科	D	専科	A	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	A	A	C	B	推進	専科	D	専科	B	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	C	専科	C	B	推進	専科	D	専科	C	C	C	C	C
5年4組 (担任：D)	A	A	C	D	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：E)	G	G	F	E	推進	専科	F	専科	専科	E	E	E	E
6年2組 (担任：F)	G	G	F	E	推進	専科	F	専科	専科	F	F	F	F
6年3組 (担任：G)	G	G	F	E	推進	専科	F	専科	専科	G	G	G	G

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ① ・学年に応じて担当する教科を精選している。高学年では国語や算数を割り当てている。
- ② ・廿日市市で実施しているアセスメント調査・居場所感調査の結果を生かした取り組みを行っている。
・学年会を中心に児童の様子を日ごろから報告し合い、理解を深めている。
- ③ ・3年生以上で教科担任制を実施している。
・中学生がゲストティーチャーになって小学生に授業をする活動を行っている。
・中学校の体育教師が小学6年生の授業を担当している。
- ④ ・週1回の学年会を中心に、放課後になるべく行事を入れずに学年で話すことのできる時間を確保している。



<成果>

- ① ・担当教科が絞られるため、一つの教材や単元に集中して教材研究することができた。
・同じ授業を数回繰り返すことができるため、課題を修正しながら授業を進めることができた。
・授業を先行している同僚に指導方法や教材教具について相談することができ、教材についての理解が深まった。
- ② ・課題のある児童について、共通理解した状態で連絡・相談することができた。
・複数の教員でアセスメントすることで、教員一人では気付くことのできなかつた児童の良さや課題、困り感を知ることができた。
・児童に関して、一人の教員で抱え込むことがなくなり、担任はお互いをカバーすることができるようになった。
- ③ ・3年生以上で教科担任制を経験していることで、教科によって指導者が変わることに對して、抵抗感がなくなった。
・中学校の生徒がゲストティーチャーを務める授業を通して、中学校を身近に感じることもできた。
・6年生では中学校の体育教師が授業を担当することで、中学校の授業についての見通しを持つことができた。
- ④ ・担当教科が絞られるため、教材研究や授業準備に必要な時間を軽減することができた。
・軽減した時間を校務分掌の仕事に割り当てることができた。
・学年全体で生徒指導に当たることができた。

<課題>

- ① ・担当教科が教員の得意な教科であればよいが、そうでない場合に授業の質が落ちる可能性がある。
 - ・最初の学級と最後の学級とでは、授業の進め方などが変わっていることがあり、学年の学力を保証することが難しく感じることもある。
 - ・各学級の児童の実態に応じて授業を進めていくため、授業の進度が変わったり、時には教師主導になってしまったりすることがあった。
- ② ・学級担任が自分の学級の児童と過ごす時間が少ない分、学級担任に見えていない児童の側面が多くなることがあった。
 - ・担当教科以外での児童のがんばりやつまずきに気付きにくい傾向があった。
 - ・トラブルがあった時など、迅速に対応することが難しく、早期解決につながらないことがあった。
 - ・細かなルールが学級によって違っていることがあり、指導が難しいことがあった。
 - ・特別な対応をする必要がある児童が多い学年では、対応が難しいことがあった。
- ③ ・教師によって態度を変える児童がいた。
- ④ ・教科によって、空き時間の差が生じていた。
 - ・行事の関係などで時間割を適正に組むことが難しいことがあり、そういった場合にはかなりの負担感があった。
 - ・成績をつける際に、他教科の基準と合わせていくことが難しいことがあった。



<対策>

- ① ・学年を超えて同じ教科を担当している者どうして教材研究をする場を設けたり、学年の中で相談したりアイデアを出し合ったりする機会を設けていく。
 - ・事前の教材研究の段階で、確実に指導しておかなくてはならない事項を把握・理解しておく必要がある。
- ② ・教員間の連携をさらに密にするために、年度当初や長期休業中に取り組みの方向性を確認する時間を大切にする。
 - ・これまで通り、日々の児童の様子をお互いに伝えあっていく。
 - ・ルールなどについて、学年間での理解を一致させておく。
- ③ ・教師、教科が変わっても「自分で考えて学習に取り組む児童」を育てていくことを確認する。
 - ・学校や学年で決まったルールを全員で守らせていく。
- ④ ・時間割を組む際に生成 AI を活用するなど負担軽減に努めていく。
 - ・空きのある教師にテストの監督や自習の担当を頼むなどの工夫をする。

資料 今年度の重点取組事項 ①授業の質の向上

例1 5年算数科「円と正多角形」

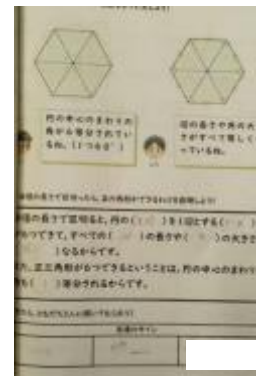
5年生算数科（2学期）の単元である「円と正多角形」では、自由進度学習のスタイルで授業を行った。全体で学習をするのは、第1次の第1時のみである。第1時のオリエンテーションでは、学習計画表を配り、学習の進め方を説明した。学習計画では児童の学習意欲を高める工夫がたくさんあり、基本は教科書とワークシートを用いた学習であるが、途中で学習したことを応用して取り組む学習が盛り込まれていた。ワークシートにも思考のヒントとなる動画の二次元コードが入れられていたり、考え方の説明を友達に聞いてもらいサインをもらったりするなど理解を深める工夫がなされていた。

学習計画表

正多角形でツリーの飾りを作ろう

ワークシートの参考動画の二次元コード

友達に聞いてもらったサインをもらう



授業では、進度が同じ児童が確認をしながら学習を進めたり、つまづいている児童に他の児童がアドバイスをしたりするなど、一人ひとりが1時間のめあてをもち取り組む姿が見られた。児童が主体となる単元の構成となっていた。

例2 6年社会科「歴史の授業」

学習支援アプリを用いて、スライドや動画の合間に、クイズを時々入れて大切な言葉などを確認し、授業を進めていった。児童は、突然出される4択クイズや○×クイズに備えて、集中し楽しみながら学習に臨むことができた。



大久保利通はどのような国づくりを目指したのでしょうか？

大久保利通の
肖像画

政府による改革（徴兵・学制など）で士族や民衆まで不満が高まった。

西南戦争の様子を描いた資料

西南戦争 士族などによる反乱が各地で起こり、すべて政府の軍隊によってしずめられた。

自由民権運動

自由民権運動の様子を描いた資料

国会を開くことを主張した。政治参加を求める声 国会を開き憲法をつくることを求める動きが出てきた。

R6 県全体と大野西小学校の比較

①教科担任制になってよかったですと思います。	◎	○	△	×
県全体	63.7	28.5	5.4	2.4
	92.2		7.8	
大野西	74.2	22.6	1.4	1.8
肯定的+4.6	96.8		3.2	
③教科担任制の授業が楽しみです。	◎	○	△	×
県全体	52.4	37.3	8.1	2.2
	89.7		10.3	
大野西	60.4	34.6	4.1	0.9
肯定的+5.3	95		5	
④教科担任制で学ことで、授業内容がよくわかるようになりました。	◎	○	△	×
県全体	64.5	25.2	7.8	2.4
	89.7		10.2	
大野西	66.8	26.3	5.1	1.8
肯定的+3.4	93.1		6.9	
⑤いろいろな先生と話す機会が増えたと思います。	◎	○	△	×
県全体	52.3	33.6	11.2	3
	85.9		14.2	
大野西	61.4	27.4	9.4	1.8
肯定的+2.9	88.8		11.2	
⑥悩みを相談できる先生が増えてきました。	◎	○	△	×
県全体	42.2	35.1	15.9	6.8
	77.3		22.7	
大野西	47.9	35.5	12	4.6
肯定的+6.1	83.4		16.6	
⑦中学校での教科担任制に対して、不安がなくなりました。	◎	○	△	×
県全体	52.1	32.4	10.5	5
	84.5		15.5	
大野西	57.6	29.5	6	6.9
肯定的+2.6	87.1		12.9	